

練馬区立小中一貫教育校推進委員会 (第6回) 要点記録

開催日時	平成 21 年 11 月 24 日(火) 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分	
会場	大泉学園桜中学校 2 階 会議室	
出席者	委員	本木薫、中島広美、諏崎啓美、伊藤照代、高野美樹、和田尚武、中田清、相馬功紀、坂口節子、小川善昭、時政千恵子、坂田美由紀、木下川肇、高島邦夫、重田三夫、元木靖則、河口浩（敬称略）
	事務局	新しい学校づくり担当課、教育指導課
	その他	教育出版
傍聴者	3 名	
案件	1 アンケート調査の速報について 2 学校生活（標準服） 3 その他	

1 アンケート調査の速報について

委員長

第 6 回小中一貫教育校推進委員会を開催する。事務局より委員の出欠状況の報告と資料確認をお願いします。

事務局

委員の出欠状況は、17 名出席、1 名欠席である。本日の資料として、資料 1-1 から資料 3 を用意した。また、第 5 回推進委員会要点記録の確定版をお配りしているが、既にホームページにもアップしているのでご覧いただきたい。

委員長

それでは案件に沿って進めていく。事務局からアンケート調査の速報について説明いただきたい。

事務局

資料 1-1 から 1-4 を用意した。アンケート調査の速報ということで報告する。

【概要】

- 資料 1-1
- 1 調査の目的 ~ 実施計画策定の参考とするため、大泉学園桜小、桜中、緑小の児童・生徒、保護者、教職員、地域住民を対象に実施
 - 2 調査の実施項目
 - (1)小中一貫教育校に対する周知状況 対象は地域住民のみ
 - (2)小中一貫教育校に対する評価と要望 「教育方針・運営方針」「教育活動」「学校と地域のかかわり」「意見と要望」
 - (3)小・中学生の進学意識 「進学時の期待感・期待内容」「進学時の不安」
 - 3 調査の実施状況 回収率 小学生 98.9% 中学生 97.4% 保護者 70.4%
教職員 85.3% 地域 31.2% 合計 70.6%

資料 1-2 調査票による集計

- 〔小学校〕 おおむね肯定的だが標準服に関しては否定的。
- 〔中学校〕 各項目について肯定的だが小学生との部活動については、否定的な意見もある。
- 〔保護者〕 おおむね肯定的。標準服と小中一緒の部活動については肯定の度合いが低い。
- 〔教職員〕 標準服で否定的な意見が目立ち、部活動でも肯定の度合いが低い。その他はおおむね肯定的。
- 〔地域〕 小中一貫教育校の開校については知らない人が半数近い。全般に肯定傾向高く、特に「教育活動」「地域とのかかわり」については期待感が表れているが、部活動だけは肯定の度合いが低い。

資料 1-3 小・中学校比較表

- ~ 小学生の進学意識については多くが「楽しみ」と考えており、その第一の理由は部活動。逆に不安要素は勉強が難しくなること。希望する部活動は小がサッカー、テニス、野球・ソフトボールで中はバドミントン、テニス、バスケットボール

資料 1-4 保護者・教職員・地域住民比較表

- ~ 特に補足説明なし

委員長

アンケート調査の速報について質問や意見はあるか。

委員

このアンケートは、小学生に特に説明をせずに行ったのか、それとも1項目ずつ担任が説明しながら行ったのか。

委員

細かいところは把握していないが、子供の反応を見ながら必要に応じて担任が補足説明していると思う。

委員

標準服に関する質問は漠然としているため、小学生と中学生で受け止め方が変わるのではないかと思う。

委員長

何か補足はあるか。

委員

アンケートの質問項目に対して、分からないような様子や雰囲気があったならば、どの学年でも担任が補足説明をしている。

委員

今回は速報ということだが、次回まとめる際に保護者と教職員については小学校と中学校で意識の違いがあると思うのでそこまで出してほしい。記述欄についてもどのようなものがあったのかまとめて出してもらえると分かりやすい。

事務局

今回の本報告ではクロス集計で、学校別の結果と自由記入欄を見ていただこうと考えている。

委員長

他に質問や意見はないか。

委員

アンケートでいろいろな意見が出たと思うが、標準服の導入は最終的に推進委員会で決めるのか、事務局で決めるのか。

事務局

様々な決定事項について決定の権限がどこにあるかは法律等で明確になっている。校名などは議会を通じて決定されるが、教育課程などの決定権は校長先生がもつ。この会の性格は今回のように新しい学校をつくる上で保護者や地域の意見を参考に、方針に反映していくための諮問機関であるということをご確認いただきたい。

では標準服についてはどうかというと、それぞれの学校の教育方針の中に含まれるもので教育委員会の権限ではない。最終的には学校が決めることではあるが、小中一貫教育校としてこの会で皆さんの意見を伺うことは重要な意味をもつと考える。

委員

アンケートの結果を見ると、小中一貫教育校の開校を初めて知った人が4割いるにもかかわらず、多くの方が肯定的な意見となっていることに驚くとともに、「期待されているのだな」という感想をもった。

できればお答えくださった方たちがどんな年代なのかまで集計できれば、自分の子供にはも

う関係ないからという立場で答えているとか、当事者としてかかわらなければならない方の意見だとか、よく分かるのではと思った。

事務局

今回、年齢は聞いていないので年代別でのクロス集計はできない。ただし、アンケート対象者は年代別にばらつきがないように抽出した。

委員長

先ほどの報告では部活動と標準服については他の項目と少し違う傾向が見られるとのことだったが、他に質問や意見はないか。

委員

「部活動に小学生が参加する」とあるが、小学1年生から部活動に参加するのかわかるとも思った方もいたのではないかと。小学5・6年生の部活動と書いてあれば、少し違った結果になったのではないかと思う。

事務局

各項目とも全体的には非常に肯定的に受け止められている。部活動と標準服も肯定の割合が低いながらも否定よりは肯定の方が多くなっている。ただし、委員から発言があったように質問内容がかなり漠然としている。今後の新しい小中一貫教育校の在り方を考える上で重要な点なので、ぜひ皆さんで話し合っただけであればと思う。

標準服については案件2となっているのでそちらで話し合っただけ。

委員

「子供たちと地域の人に触れ合う機会を多くつくります」という項目があるが、地域ボランティアや高齢者との触れ合いといったものを想定しての質問項目なのか。

事務局

事務局としては具体的なメニューは用意していない。ただこれまでの検討のなかで地域とのかかわりを強めていくということが小中一貫教育校としての理念の1つにあったので挙げさせていただいた。具体化していくためには、推進委員会で話し合ったり、学校で検討していただくことになる。

アンケート結果については、記述式の部分も含めてもう少し詳しくクロス集計したものを次回報告する。

2 学校生活（標準服）

委員長

次に、標準服について事務局から説明をお願いします。

事務局

資料2の「標準服の導入状況」から説明する。

日野学園については着用率100%で開校年度から導入されている。伊藤学園も着用率100%だが、開校から3年間の移行期間を設けた。八潮学園は選択制を採っているが、統合が絡んだ小中一貫校ということで、他の2校とは事情が異なる。

広島の呉中央学園では、小学5年生からの選択導入だが、着用率は低く卒業式間際の購入が多いとのことだ。小中一貫校ではないが台東区と中央区の小学校の事例を載せてある。台東区では各学校の判断で19校中18校が導入しており、小学4年生で標準服に対する就学援助が出ている。中央区では16校中14校でPTAが独自に導入しているものの就学援助の対象とはなっていない。

資料3は小学校の標準服を検討するにあたってのパターンということで(1)「開校年度から着用する」(2)「いずれ着用するが、移行期間を設けその間は選択制とする」(3)「着用は義務付けず選択制とする」の3つを挙げている。

導入時期としては(1)「1年生から」(2)「5年生から」の2通りが考えられる。中学校の標準服の見直しについては、小学校での導入によるデザイン統一に伴い(1)「モデルチェンジを行う」(2)「モデルチェンジを行わない」の2通りが考えられる。

委員長

標準服について意見や質問があればお願いしたい。

委員

小学校で全く標準服を導入しないということはないのか。

事務局

資料3は導入を前提とした場合の例で、導入せず今のままという選択肢もある。

委員

5年生から制服になると仮定した時、緑小から来る子供のことを考える必要があると思う。再度保護者にアンケートを取れるのなら細かく検討し結果を出したい。

委員

以前、興本扇学園で同じ校舎に制服とそうでない子どもたちがいることに違和感を感じ、標準服の推進派という立場で意見を述べた。資料3では中学で引き続き標準服を着用することを前提にしているが、統一化を図るためには中学校を自由服にするという方法もあると思う。そうすれば緑小から来る子どもの問題も解消されるのではないか。

委員

今の件について緑小の通学区域の保護者から、何か情報が入っているのであれば、教えてほしい。

委員

今のところ保護者から私の方に直接質問などは来ていない。父母会の定例会で推進委員会の報告はしているがあまり実感がわいていないようだ。中学校が自由選択制になっており桜中に来るかどうかまだ決まっていないため、それほど関心が高くないものと思われる。

委員

私の方にも小中一貫に関する質問、要望などは届いていない。

委員

標準服を導入するとなった場合、行政として援助を考えているか。

事務局

現在、練馬区では中学校も含めて就学援助の項目に標準服の支援というものはない。そういった援助は今のところ想定していない。

委員

標準服の導入にあたり、フォローをしてほしいという要望があれば考えていただけるのか。

事務局

その場合は、貴重なご意見として検討することになると思う。

委員

一般的には標準服は公費で負担する性質のものではない。ただし、小中一貫教育校という新しい学校をつくっていくなかで、標準服の統一が非常に大きな要素だということであれば検討したいと考える。

事務局

各立場の委員さんに集まっていたので参考までにお聞きしたいが、小学校1年生から標準服を導入するとすれば中学校に入るまでの6年間で何回くらい買い換えなければならないと考えられるか。

委員

個人差があり何回というのは難しいが、小学生の場合は3回くらい買い換えなければならないと思う。今、体育着を着ているが、6年間通すのは難しい。兄弟で使ったり、リサイクルしたりということもある。中学校でも3年間通す子供もいれば、途中で買い換えなければならない子供もいる。

委員

うちの子は小学校での体操着は1回の買い換えで済んだが、毎年換えている子もいる。小学生の場合、1着だけというわけにはいかないと思う。

事務局

うちの2人の小学生の子供は制服だが、登校時にも着る物に悩まず、冠婚葬祭も制服で済ますことができ、たいへん重宝している。ただ6年間同じものを着るのは不可能で、横のつながりやバザーで調達するという状況だ。もし導入するとなればリサイクルなどの仕組みを併せて考えるといいのではないか。

委員長

他に質問や意見はないか。資料3の「小学校における標準服の導入について」にかかわることでも構わない。

委員

今回のアンケート速報を見て、標準服に関して肯定的な意見が多いという印象を受けた。興本扇学園で違和感があったので統一標準服はあった方がいいと思うが、学年によっては保護者の考え方も違うのではないか。金銭的なこともあり、移行期間を設けるなどして対応することが必要と考える。次回、皆さんが自由記述でどのような要望・意見を書かれたか見たい。

事務局

台東区や中央区のように小学校単位で導入する事例があるのは、何らかのいい面があったのと思う。小中一貫校を契機として標準服を導入する事例が多いが、これを機会に小学校単位で検討してみるのはいいいことだと思う。

事務局

この標準服の検討については、もう少し詳細なアンケートを取りたいなどの意見もあったが推進委員会の回数も限られており、最終的な結論をこの場で出すのは難しいと思う。そこで提案だが推進委員会ではなく学校に持ち帰っていただき、一番かかわりが深い保護者と学校でより詳細に検討していただくというのはいかがでしょうか。

そこで一定の方向・結論を出してもらい推進委員会に報告していただくというように進めていければと思うのだが、校長先生としてはいかがか。

委員

学校内に検討委員会を設置することには反対ではなく、事務局のバックアップがあれば何とかやっていけると思う。本来、標準服をどう定めるかということは、学校の責任において行うことであり、積極的に受けるべきものとする。今日の会議では保護者の負担についてのご意見が多かったが、教育的な価値としてどうあるべきかということが根本にあり、その中で保護者の負担を検証していく必要がある。

教員と保護者が連絡を密にとりながら議論していくにあたり、相当な事務量が予想されるため、事務局の支援をお願いしたい。

委員

桜中が開校して標準服を導入する時に、いくつかのモデルを並べアンケートや投票をしたことを思い出した。皆さんが好感をもてるものが導入されることを期待したい。

桜中が開校した時も移行期間を設けたと記憶している。

委員

私は標準服の教育的な効果を認めているが、最初に標準服が必要かどうかを議論しなければならない。また、地域の方々の期待や生徒の意識も考えていかなければならない。アンケートをとるにしてもどのようなコンセプトのもとで行うのか十分配慮する必要がある。

開校年度に間に合わせるためには相当ハードであり、推進委員会にバックアップしていただかないと簡単にクリアできる問題ではないが、前向きに小中一貫校への思いを集約していくいい機会でもあると思う。

委員

事務局の提案は、委員会を別に設定するととらえていいか。また、委員会の設置は事務局と学校のどちらが行うのか。

事務局

学校のほうで標準服の検討会を設けていただきたいと考えている。

委員

委員構成もすべて学校で決めると考えていいか。

事務局

基本的には学校のほうでお願いしたいと思う。事務局の支援として、資料の用意等必要なことはお手伝いする。

委員

学校で標準服のモデルチェンジをする場合などは、校長の経営計画に基づき校内に委員会を設置するということはよくある。今回の場合は練馬区教育委員会の大きな施策として小中一貫教育校をつくるという方針があるため、一学校の独自の委員会、コンセプトでというわけにはいかないと考える。委員会を設置するにしても事務局に入ってもらうことでバランスのいいものになると思う。

新しい学校づくりにかかわることなので、学校だけで負いきれるものではないということを示し上げておく。

事務局

趣旨は理解した。具体的にどのような検討委員会をつくるかについては個別に相談する。事務局として支援できる方策を考えていく。

委員

次の委員会までにアンケートなど保護者の意見を聞く機会を設け、意見を集約してから検討委員会をつくるという手順でも遅くないのではないか。

事務局

導入の是非をアンケートで最初に決めてしまうということではなく、どのようなアンケートにするのかということも含めて学校に持ち帰り、1番の関係者である保護者の皆さんと話し合っていたきたいということを提案した。導入するにしても12パターンあり、それらを具体的に考えてどうかといったことなどを整理していただきたいと考える。

推進委員会は全く関係ないということではなく、方向性など報告していただければ、地域の方の意見もいただける。詳細な点についての検討は学校と保護者が一体となっていくのがいいのではないかとことだ。

委員長

他に意見や質問はないか。今日いただいた意見を踏まえ、大泉学園桜小学校と大泉学園桜中学校で標準服の検討を進めていただきたいと思う。また、事務局の支援をお願いする。

3 その他

委員長

本日の案件は以上だが、次回の予定案件について事務局から説明をお願いしたい。

事務局

アンケート調査の報告をさせていただく。また、それを集約する形で今後の課題、議論の方向性についてご意見をいただきたいと考えている。

委員

確認だが標準服の検討委員会は学校の先生だけでなく、教員や保護者、地域、事務局の方が委員となり組織するというのでよいか。

事務局

主に先生と保護者が一緒に検討していただくというものだ。地域、事務局という話も出たが検討の中心は学校であり、どんな組織にするかについては相談する。

委員

標準服については統一校名、統一校歌、統一校章と同じくらい重要ととらえている。制度的には校長判断となるが、十分皆さんにかかわっていただき、校長の判断に間違いがないよう応援していただきたい。

委員

最初の検討組織の立ち上げがかなり難しいと思うが、応援をよろしくお願いしたい。

委員長

両校長の意見を十分考慮し、進めていただきたい。

事務局

具体的な進め方も含めて十分相談する。

(第7回小中一貫教育校推進委員会の開催日程の確認)

12月16日(水) 午前10時～ 於 大泉学園桜中学校

委員長

以上で第6回小中一貫教育校推進委員会を終了する。